

## ごあいさつ

日脚は伸びて来ましたが、寒に入り寒さがきびしい折柄会員各位にはいよいよご健勝で本道高校教育にご励精のことと存じ心からお慶びを申し上げます。

昭和49年は、これまでの順風満帆のわが国高度成長経済が、内外からストップをかけられた年となりました。この機会を反省転期の年とするか否かは、わが国の将来に極めて大きな影響を与えるものと思われまます。

思うに教育は、過去を踏まえ、現在に立ち、そして将来を展望するものであって、単に時代に追随し、時代を先取りするものではありません。この意味で時代を批判し、激動の社会に不動の教育を見出す努力が必要と思います。

このような情勢下に私どもの第11回研究大会が、去る1月9日、10日の両日にわたって開催されましたことは極めて意義深いものがありました。会の運営につき、いろいろと努力した積りであるが、不十分な点は深くお詫び申し上げます。

この大会は、十周年大会の反省に基づき、各教科部会および各地区支部の研究の積み上げに努力した積りではありますが、その成果は必ずしも十分とは申せません。本研究会の中核は、あくまで各教科部会の研究であって、これを支えるものが各地区支部の研究活動であり、各校における研究と実践であると思います。この点、札幌における2日間の研究で、「高教研終わり」とせず、この基盤を培う努力をお互い継続してやって行きたいものであります。

今お手許にこの大会の模様を伝える記録の要約をお届けできますことを喜んでいきます。何卒会員各位には、参加、不参加にかかわらずご高覧の上、各校における今後の研究と実践の資にして下さるようお願いいたします。

## ◎ 日程第一日・全体集会

### 〈全体講演〉(午前部)

〔講演要旨〕

#### 「近代学校制度 — その性格と展望」

日本育英会理事長 天城 勲氏

教育の課題を考える際に「近代学校」について考える必要がある。日本の教育は数量的には高校進学率89%、大学進学率36%と大変な発展を占めてはいるが、実際的には、教育不在・教育公害が叫ばれており、内容的にはかなりの問題がある。明治以来の近代学校は、今日もっている種々の問題を解決していく時に十分適応しうるものだろうか。100年間の時々に対処すべき方法に努力はなされてきているものの価値判断に次のようなパターン化が出来ていることは否定できない。1) 教育制度は社会の一定の価値体系を社会的に制度化したものであり、日本の近代化と密接に関係 2) 近代学校は社会と一定の距離を保持。学校は先導的・啓蒙的・時代先きどりの。3) 教授方式のパターン化、①年齢別学年編成方式、②一定数の生徒をまとめる学級方式、③一斉授業方式、④一定の時にペーパーテストによる試験評価、⑤4間×5間の教室定着 4) 完結性の主張、⑥校風の主張—学級王国論、⑦壁の多い建物、⑧教育課題において本質的に教科別の原則保持、以上の諸要素には学校の閉鎖性・限界性を内包している。この近代学校のパターンが今日ではデメリット化している。その理由は、1) 社会の一定の価値体系の動揺、2) 授業方式のパターン化の問題—情報伝達メディアの増大、パターン化された方式中での多様化は困難、無学年方式、チーム、ティーチングの問題、物理的学校のあり方等について検討、3) 完結性の問題、90%の進学となれば、小中高の一貫性と発展性が必要。高等教育に36%進むと同時に、生涯学習・生涯教育が叫ばれており、どの段階の教育も完成教育ということはいえなくなってくる。近代学校の持っていた性格が違った形をせまられている。

今後の教育改革を進めていくのがよいか、の問題はなかなか困難な問題である。ところで、「社会福祉」は社会的弱者に対する手当てとして発展し、国民生活の基本の中に入ってきており、教育の機会均等論から貧困なもの教育、精神的要素も加わって教育と福祉がある点で結びついてきている。生涯教育の観点からみると、教育は学校だけの問題ではない。学校教育の役割を考える必要ありとの反省が出

てきている。第3の教育改革は学校制度を変えればという単純な問題ではない。社会の急激な変貌と近代学校がマッチしなくなっていることは重要な問題であるが、性急な教育改革も問題であろう。しかし学校は教育の場である。教育とは、いかなる内容をいかにして教えるかということで、教育課程の改革ということからはじめて、教育条件等の問題に取り組んでいかねばなるまい。教育課程の改革という点で筑波大学に先例がある。この問題に正面から取り組んでゆくのが今日の急務であろう。

(余談的に)

教育にゆとりを → 子供の遊びを教育計画の中に ← 近代学校を支えていた社会基盤の中から 自然環境喪失

自然破壊という問題から近代工業に対する批判が出ている。本来日本には「自然」ということばはなかった。自然と一体化している意識からは西洋的自然観は生まれない。にもかかわらず、西洋の技術導入と日本人的自然観との協によって現代化を押し進めていくため自然破壊を一層進めることに問題がある。

ともあれ、公教育という立場で、近代学校のはたしてきた本質的意義を生かしながら新しい教育を創造して行こう。

### 〈全体講演〉(午後部)

〔講演要旨〕

#### 「教育評価の今日の問題」

応用教育研究所長 橋本 重治氏

教育の目的論、内容論(課程論)、方法論は指導法、評価法の二つに分けられ、治療と診断に相当する。評価は最後に来るものではあるが、最初ともいえる。また一断面のようだがパブリックリレーション(社会関係)と深いかかわりがある。

市販テスト問題は、本来教育政策論であるのに、評価の面で議論が起きている。これは評価が社会的に重大な影響を及ぼすからである。評価は価値観、目的論に準じて判断を下すもので、人間が価値観、目的観の中に生きている以上、評価をやめることはできない。評価は教育だけでなく、広く社会や文化の底にひそんでいるものである。

戦前の価値観は、精神的・人格的・文化的なものを高く評価していた。戦後は、物質的(経済的)なものへと価値が転換した。また、個人と社会を比較

した場合、戦前は社会に重きが置かれていたが、戦後はあやまった個人主義によるエゴを重しとしている。梅原猛氏は「今までは、人類は知性の哲学であったが、今は欲望の哲学、感情の哲学によって支配されている」といっているように、日本ではエゴに支配されている。

本来、自主性とは欲望をコントロールすべきものだが、自己の欲望を遂げるものと化している。ヨーロッパでは、社会とエゴのコントロールができており、自己を抑制している。しかし、日本人は評価基準をエゴにおいている。ここに日本人の問題点がある。公的・精神的なものに価値をおかなければならない。

### I 学校教育における評価の今日的問題

元来、教育評価は教育学、教育心理学、測定学で解決がついていた。しかし、今日ではさらに、(1)社会的見地、(2)人権思想 — が入ってきた。そのために混乱をきたしている。

教育評価の混乱の原因には、

- (1) テストは選別し、差別するという思想
- (2) 相対評価を絶対評価に変更すべしという思想
- (3) 一律評価、無評価(価値観の多様化のため一時ストップすることも考えられるが、無評価は評価の放棄、教育の放棄である)

の三者がある。評価は方法論であるから、評価目標の分析が大切である。さらに、自作テスト、知能テスト、自己評価等の研究によって、早く混乱を除くことが望ましい。

### II 選別、差別思想についての見解

選別と差別は違う。差別が悪いことは自明である。これは人格に上下はないという人道主義に基づくが評価の問題を人道論だけで考えてはならない。教育方法論は科学である。生徒理解においても、個人の差を無視できない。個人に差のあることは事実である。その差に応じて、個々人をのばす必要がある。科学を無視してはならないし、科学と人道との調和による結論が大切である。近代的評価は教育の出発点である。

選別は、進路指導等、社会的には必要である。総ての評価をやめた場合、進学、就職では必要ゆえ、家柄、財力による選別がなされることは明瞭である。

### III 絶対評価と相対評価に対する見解

最近、絶対評価が見なおされてきているが、平常授業では、絶対評価の方が利用価値は高く、指導要録、通知箋では、相対評価が捨て難い。両者には一長一短あって、二者択一ではなく、用途による使い

分けの問題である。

## ◎日程第二日・部会別集会

### <国語部会>

#### <研究発表>

##### ①「漢文教材研究—「思想」を中心に—」

札幌琴似 浅間敏夫

漢文教材の主たるものは經子類である。その中でも論語が最も多く、孟子、老子がつく。思想教材には、抽象的語句が多く見られる。そのため語句の意味を把握していないと、思想を理解できない。さらに時代論者の違いによつて意味を異にするので、思想史にふれる必要がある。例えば、「天」には、理念としての「天」と、自然物の「天」とがあり、概念が多義にわたるため、生徒には理解しにくい。生徒の理解を促すには、伝統的な考えを踏まえなければならないし、論語全文を読むことが大切。論語は断片的な文が多く、歴史的にも古いから、後世の解釈は多岐に及び、それらを示しながら社会的状況や他の文との関係から解釈を決定すべきである。次に漢文を見る態度には「伝統か、革新か」という問題がある。両考は直ちに価値を表わす概念でないから、両者のいずれかを決定する際、どの点が、どんな意味で、何に対して「伝統か」「革新か」を明示すべきである。

##### ②「本校国語教育の実際と生徒の実態から見た指導のあり方を模索する」

旭川東 三宅仁

どうしたら効果的な授業を展開できるか、指導法に苦慮する。教科の担当者が一つの目標に向つて、生徒の期待に答えるべく努力しなければ、生徒の向上は望めない。

生徒へのアンケート結果

- (1) (イ) 感銘した作品…徒然草、平家物語、枕草子  
(ロ) 感銘した理由…作品の内容、古代人の心、作者の人間性に対する興味  
(ハ) 学習したい作品…源氏物語
- (2) 古典の学習時間…非常に少ない。
- (3) 学習上、困難点を克服する方法…参考書を利用、友人に聞く。
- (4) 古典学習上の困難点…文法
- (5) 国語が人格形成にあたる影響  
現代国語……自己の思想形成  
古典……あまり影響がない

- (6) 国語学習についての希望意見…教師の反省しなければならない点が多い。

今後の課題

教師の授業の困難性は、授業導入のむずかしさであり、口語文法を中学で学んでいない点にある。さらに国語の時間不足。

##### ③「古典学習に於ける視聴覚器材の利用」

函館西 村松金雄

古典に興味を持ってない者が多い。理由は語句の意味、文法にある。興味を持ってない者をどうしたらよいか、OHPの使用を試みた。

視聴覚器材使用の例

2年生、大鏡「花山天皇御出家」

(1)歴史物語の性質、(2)大鏡の文学史的知識、(3)他の歴史物語との比較、(4)文章構成、大意等、スダレ式に順を追つて展開。その結果、興味を持った者がふえ、工夫によつて、一層効果が期待できる。

○質疑応答が活発に行われた。

#### <講演>

「源氏物語と川端文学」(要旨)

国学院大学講師 伊吹一氏

美しいことばは、(1)ことばそのものの美しさ(大和ことば)(2)前後の位置における美しさ(3)使用者の心の美しさにある。源氏物語と川端文学のつながりは、精神美にある。川端自身、「自分の文学は源氏精神」といつているように、川端文学には精神美がある。それを如実に物語つているのが、川端の作品「哀愁」である。源氏には不完全さがあり、それは余情、優美、繊細につながる。川端文学にも不完全さがある。日本人は、古来、不完全さを崇拜する特徴がある。川端は「美しい日本の私」の中で「私の作品を虚無といつている評家がいるが、西洋のニヒリズムとは違う」といつている。西洋の無は否定無であり、日本の無は肯定無であつて虚無ではない。日本文学は不完全さに特色があり、俳句もそれである。「古池や蛙とびこむ水の音」、蛙が飛び込む前の静寂さと後の静寂さでは、飛び込んだ後の静寂のさに深みがある。古池は肯定無、飛び込んだところは否定的な肯定無がある。つまり否定の否定が肯定であり、そこに不完全から完全が生まれる。日本人は、自然を抽象的には捉えず、具体的に捉え、その自然を自分の心で色どつているのである。源氏には

心理的葛藤があり、ロマン的世界に遊んでいるかと思うとリアルに戻っている。「哀愁」の精神は、源氏につながる。川端はすべて源氏から入って、源氏へと至るのである。

### <社会部会—地理分科会>

#### <講演>

「地誌指導の諸問題—ヨーロッパを中心に」(要旨)

一橋大学助教授 竹内啓一

ヨーロッパ地域のとらえ方として次のようないくつかの問題点を考える必要がある。

1. ヨーロッパの伝統的様式について  
農業、牧畜等の共通点や形態的要素の配列について広い地域(スケール)の中で考える。
2. 地域を考える場合の尺度について  
ある観点を定め比較的に地域を見ていくことである。
3. 国内地域の相違について  
国民経済の地域的な違いを考えることである。
4. 地域の境界線を基本的におさえること。東西ヨーロッパ等の根拠をはつきり示しておく必要がある。
5. 外国地誌の学ぶ必要性について  
一つの地域を徹底的に調査し相違点を発見することによつて、人類の普遍性に注目して見る必要がある。

#### ○シンポジウム

主題 「社会科の構造と地理教育」

提言者A：学習指導要領では、小、中、高校へとその学習内容は次第に網羅的に与える原理となつている。地理教育は、事実と関連づけて理解させることを考えなくてはならない。

提言者B：現行の教育課程の構造に満足していない。大根の輪切りの感じである。

系統化～発達段階に応じて配列されなければならない。

提言者C：地理教育は認識に終始しているため魅力のない科目にしている。

もつと教科の中で相関関係を持ちながら、進めて行く必要がある。また教師は大胆に先行思考を取り入れていくことが必要である。

#### <研究発表I>

「思考力を養う地理学習を目指して」

稚内商工 遠藤 勲

1. 教材を精選し構造化してゆくこと
2. 学習方法に工夫をこらすこと
3. 予習課題を与えること  
について発表がされた。

#### <研究発表II>

「思考力を養う地理学習を目指して」

白糖 島口 浩

地理についての学習指導法の研究が大切であるということと、視聴覚教材を利用し生徒の能力開発をはかるということが発表された。

#### ○研究討議

講師として竹内啓一先生(一橋大)、助言者として栃木義正先生(札幌星園)、前田武男先生(道教委)、司会者、高橋久志先生(増毛)等で討議がなされた。

中心になる議題は

1. 地誌指導の諸問題—ヨーロッパを中心に
2. 社会科の構造と地理学習
3. 思考力を高める地理学習  
等であつた。

内容については次のようなことが話しあわれていた。

①視聴覚教材でオーバーヘッド、スライドは出来るだけ使用したい。

②ある程度教科書を離れることは許される。

③地理教育も生涯教育でなければいけない。

④窓方式も一方法である。しかし、全地域に出来るだけ気を配りたい。

⑤学習方法についての研究をされたい。

⑥学習内容をどう取り上げて、それに生徒がどのように反応したかというような研究も必要である。

### <社会科部会—倫社分科会>

午前「倫社教育の現代化とその方向」を主題として二つの研究発表が行なわれ、午後「現代社会と青少年の意識・行動」と題して道警本部少年補導官、田野竹松氏の講演があつた。

## <研究発表 I>

### 「先哲学習における自作資料集 のこころみ」

雄武 板垣 隆 昭

先哲とその思想をどうしたら生徒が理解できるか、生徒が主体的に考えていく授業をどのように展開したらよいか、思想を単なる抽象的な語句の羅列としてとらえるのではなく、生き生きと共感をもつてとらえ、それに興味をいだいていくために、資料を自作し授業を展開、さらに授業をしているなかで、できるだけ多くの質問を生徒になげかけ、教科書・ノート・プリントを「ひかせる」という面に留意、今後の課題として、主題カードの作成、資料集のノート化、生徒のワーク化という面において改善点を考えていかなければならない。

## <研究発表 II>

### 「生徒に活動させる授業を」

南幌 長谷川 祐 也

一斉授業の形態において生徒の授業参加をどう進めるか、活動を進めるために、1.動機づけ、2.理解の促進、3.思考力の深化、4.主体性・創造性を育てるという面から考察、さらに活動の進め方の留意点として、1.指導のねらいとしての最終目標行動を定めその具体的表現を考える。2.発問によつて問題提起的にすすめる。3.問題解決・理解促進・知識定着思考力をのばす活動。4.指名・話し合いによる全員の参加ということに留意し、さらに授業を生徒の活動という側面より科学的に分析し、反省することによつて思考力の養成をはかつてゆきたい。

## <講 演>

### 「現代社会と青少年の意識・行動」

道警本部少年補導官 田 野 竹 松

少年の非行問題について、北海道の少年の非行の現況は過去10年間の統計からみていくと、最も少年非行の多かつたのは昭和39年で補導された少年の数は19,522人であつた。その後、年々減少傾向にあるが昨年の11月末の統計では、若干増大傾向にある。しかし、ここで問題としなければならないことは、量的なことではなく、質的なことである。すなわち内容の問題である。具体的にいうと刑法犯少年が、非常に増えてきたということである。最近の例をみると、小学生・中学生などが、強盗・放火・恐かつたなどで補導されている。昭和47年の補導された少年は10,876人であるが、その中で再犯少年

が31.5%である。この比率は全国の統計からみても上回っている。少年人口1000人あたりの非行率も、過去10年間、北海道は全国比率を上回っている。

少年非行の傾向としては、第一は低年齢化ということである。特に14才以下の少年の非行が増大している。第二に内容の悪質化ということがあげられる。第三に有害環境の影響による非行の増加である。第四に家庭環境に起因する非行の増加。第五に自動車に関連した非行の増大をあげられる。

次に非行の要因としては、個人的要因、家庭的要因、社会的要因を考えることができるが、その中でも後天的環境として重視されるのは家庭的要因、社会的要因である。近年における著しい社会環境の変化、価値観の多様化は社会的に弱者である少年たちに大きな影響を与え、そして現代社会の遊び的・享樂的風潮が少年の非行に大きく影響しているであろう。また、家庭においても、放任、過保護といった風潮は、少年の忍耐力を欠乏させ、無気力を生み出し、さらには人生の厳しさを知らない少年に育てあげている。そういう意味では、非行に転落した少年は、被害者であるということができるとはならないだろうか。

## <社会部会—世界史分科会>

### <研究発表 I>

#### 「日本史の側面からみた朝鮮史—

高松塚古墳の教材化」

砂川北 宮 森 正 勝

現在、日本史を担当しているが、教材の構造化、主題の精選をして、計125時間の授業計画表を初めに生徒に配布している。このしおりの内容は、日本史学習の目標、各単元の目標、1時間ごとの1主題、さらに、単元の大まかな展開の図式を含んでいる。

47年3月の高松塚古墳調査の成果を、「大陸文化の伝来は日本にどのような影響をのこしたか」という主題の中でとりあげてみた。自作のスライドなどで説明をしたが、その際朝鮮とわが国の関係がいかに深いかを帰化人の活躍を例としてあげ、さらに朝鮮史を学習する必要にせまられたわけである。

朝鮮とのかかわりの中で、生徒が九州—対馬—朝鮮の距離をたしかめて、実感として歴史を感じとつたことは、まさに正しい成果だつたと理解したいのである。

## <研究発表Ⅱ>

「講義式授業のマンネリ化を打破する為に  
一グループによるレポート作成」  
岩内 三ツ井 孝 二

英語・数学に重点がおかれ、世界史への興味、関心がうすい生徒を、何とかしなければということで、46年・47年にグループによるレポート作成を実施した。

46年は、統一テーマ「ロシアの南下政策」を全員に課した。これは、ロシアの極東政策やバルカン問題を国際的に理解してほしいということで選んだ。結果的に、学校図書の利用に無理があつたり、他教科への悪影響も出たが、質問が多くなり、興味を示す者が多くなつてきた。

47年は夏休みを利用するようにし、テーマも自由に選ばせたところ、25テーマ、29グループに分れたが、全体として生徒は積極的にとり組み、成果をあげることができた。ただ三年生での実施は負担が大きいことや評価の点で問題を残していると考えている。

## <講演>

### 「封建制と官僚制」

北海道大学助教授 東 出 功 氏  
封建制と官僚制は、アンチノミー（二律背反）として扱われているが、封建制と交換経済の場合と同じく、必ずしも妥当ではない。

官僚制をとりあげた理由は、教科書では不足している国制史の体系的記述に不満をもつたこと。また20世紀における三権の比重が行政権にかたよっている現在、国制の根幹としての近・現代官僚制の性理・病理は何かを考察する必要があるが生じてくること。このためその前史となる中世官僚制を考察してみたいということにはほかならない。

中世官僚制について、一般に関心が希薄なのは、中世への認識の暗さであり、近代官僚制をすぐ考えてしまう弊害からきている。

そこで、中世後期、イギリスにおける王直属の官僚、特にKing's clerk（国王書記聖職者とも訳すが……以下KCと略す）に限定して考察してみたい。

史料から、KCはウィリアム1世代に出現し、1507年まで見出すことができる。エドワード6世代には一人もいないので、おそらくヘンリー8世代に重大な運命の変化が、KCにおこつたのではないかと考えられる。

主要な行政長官職を調べると、195人中175人が聖職者であり、さらに175人中152人がKCであつたことが判明する。

官職には、人事権を握るパトロンが必ずついていて、これをPatronageといい、大半のそれは王に属していた。これはそれを所有する者にとつて、固定資産の一部ともいえた。

KCに代表される官僚制は、まずウエーバーによる家産官僚制の一類型であり、封建制のアンチノミーとして存在したのではなく、封建制の維持・延命という役割を果たしたことに注目したい。さらに、官僚の俗人化は、即近代官僚への移行ではないのであつて、絶対王制は新しい型の家産官僚によつて維持されたことを忘れてはならないのである。

## <社会部会一政経分科会>

部会運営委員より役員紹介があり、つづいて午前の司会、両国毅先生（帯広柏葉）から助言者の長谷川隆博先生と村山康平先生の紹介並びに本日の時程について説明があり研究発表に移る。

## <研究発表Ⅰ>

「『政治学習』をするに当つて一良識ある  
公民に必要な政治的教養に関連して一」  
美唄南 影山 悟

高等学校学習指導要領の改正で、政治・経済の主なねらいが目標(I)の「良識ある公民としての必要な政治的教養の基礎を高める」ことにおかれたということ。また「政治単元をいかに指導したらよいか」ということを前提として教育基本法第8条の規定を正しく理解するためにも「良識ある公民に必要な政治的教養」について正しく認識する必要がある。

以上のようなたてまえから「良識ある公民に必要な政治的教養」とは何か？その教育のあり方について発表があつた。

### 一質 疑一

政治単元を指導する場合の教師の姿勢、政治教育の中立性、時事問題の指導の仕方、議会制民主主義の具体的な指導について等について質疑がなされた。その後、助言者の村山康平先生より、時事問題については生のまま取りあげるのではなく生徒が充分考慮したうえで選択できるような指導等について助言があつた。

## <研究発表Ⅱ>

### 「政治単元指導上の諸問題」

一現代化を中心に—

池田 穂原 康政

社会科における現代化の背景には、近年の著しい情報産業の発達にもなる情報・知識の増加、そのために学校教育においても、そうした社会的要請にこたえる必要から教材量の増大という現象をうみだした。その結果、不消化現象があらわれたり、また高校進学率の上昇は教育現場に一層深刻な問題をもたらした。

つめこみ学習に対する反省を背景として、教材の精選が提唱されていることから、社会科の目標に照らして教材をいかに精選し、どのように順序づけ、どう指導するかについて具体的な発表があつた。

—質 疑—

進学率の上昇している現在、個々の生徒に適した教育、教材の精選をどうしたらよいか、小、中学校の先生との交流はなされているか等の質疑がなされ、その後、助言者の長谷川先生から教科・科目間の連携について、重複している部分をどうするか？重複している場合でも、教科・科目の独自性を堅持して質的精選を考えることが大切であるとの助言があつた。

## <部会講演>

(演 題)

### 「法と道徳」

一橋大学助教授 上原 行雄氏

はじめに現実的問題としての法と道徳、の概念規定などについての話があり、続いて法と道徳はいかなる関係にあるかということを実際の問題として、その性質・機能・内容についての分析、また法と道徳はいかなる関係にあるべきかということを権利の問題として①道徳優位説、②法優位説、③独立説等について話があり、むすびとして、「社会科教育の現代化とその方向」との関連で「社会科学物的な物の見方、考え方」を培うことが大切であるとの講演があつた

—質 疑—

意識と行動のズレ、飲酒、喫煙など生活指導上の問題点など、現実的な質疑がなされた。

## <社会部会—日本史分科会>

〔主題—古代史指導上の諸問題〕

## <研究発表Ⅰ>

### 「律令政治の展開における主体学習過程の構成」

振内 米山 俊文

米山氏の研究発表は夜間定時制で一クラス七名の生徒数、学力、学習意欲等の問題をかかえた生徒をいかに能動的、自発的な学習へ導くかと言う点に重点がおかれていた。それだけに教材の精選、構造化はもちろん、生徒の自主的活動、個別指導、そして生徒との実質的対話を取り入れた苦心がうかがわれた。その結果到達された所が主体学習であつた。資料を提示して生徒に歴史の流れに矛盾、疑問を強く意識させる過程が「律令政治の展開」とくに「大化改新」を中心とした授業の実践例が報告された。日常生活の感覚の中から歴史を考えさせる、資料は必ず模造紙に書いて生徒に提示する、学習用紙の使用等は主体学習を進める上において効果的方法であることを強調された。

## <研究発表Ⅱ>

### 「古代史における授業展開の一試案『覚える歴史』から『考える歴史』へ」

小樽桜陽 三国 彰

三国氏の研究発表は前者米山氏のそれとは対象的に、一クラス四十数名と言う生徒数、しかも進学希望者の多い教室での実践報告であつた。高校への進学率が上昇するにつれて、生徒の能力が多様化し、それに応じて生徒に歴史の流れを考えさせる必要性を強調された。特に内容精選、副教材の使用には心をくばられ、講義様式の授業の中で一時間一テーマを原則とされ、歴史学習の根本である歴史的事象の位置づけに年表を、地理的概念の把握には地図を、歴史的事象の因果関係の理解を深めるために史料を副教材として、それぞれを効果的に使用されている。「考える歴史」を学習させるなかで、古代史は史料不足、学上の問題点等によつかる可能性があり、歴史の授業における巨視的観点、微視的観点のかねあわせの重要性も主張された。

〔研究協議〕

両氏の研究発表が、現場での実践例を中心にして行われたため、質疑も主として教育機器、視聴覚教育、内容精選、発問の利用のしかた、教科書の記述と最近の学説とのかねあい等について、実践例をめ



ぐつて話し合われた。

〔明年度のテーマ〕

明年度のテーマは「中世史」を中心に取り上げることに決定。

＜講演＞

「鎌倉幕府地頭職の設置目的と封建社会の特質」

北海道大学助教授 義江 彰夫 氏

日本歴史において封建制成立期としてとらえられている鎌倉時代は、京都の公家政権と鎌倉の武家政権とが並存した時代でもある。それだけにこの時代における政治構造は流動的、かつ複雑であり、幕府の本質をいかなるものとしてとらえるかにより、幕府成立をどの時点におくかと言う問題をかかえている。今回の講演は地頭職設置の目的を原点に立って、厳密な史料批判の上で考察された。特に地頭職設置の目的、過程について『吾妻鏡』の記事を解釈する場合、『玉葉』その他の根本史料を基礎として、史料批判をおこなっていることは封建制度史を考察する上にも重要である。地頭職設置は守護制度とともに江戸幕府までつづく日本の封建社会の原型であることを分析された。氏の一連の分析、考察は生徒に対しても必要な態度ではないかと思われる。

＜数学部会＞

＜講演＞

「行列の応用と写像について」

神戸大学教授 細川 藤次 氏

○行列の導入について

$$y = f(x) = ax + b$$

$(x_1, x_2) \rightarrow (y_1, y_2)$  変数のペアからの対応  
一次変換 (ベクトル  $\rightarrow$  ベクトルの写像)

$$\begin{pmatrix} x_1' \\ x_2' \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} \\ a_{21} & a_{22} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix} \text{において } \begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} \\ a_{21} & a_{22} \end{pmatrix} \text{が} \\ \text{2行2列の行列となる。}$$

○行列の集合  $\{A\}$  の演算について

導入は一次変換から  $\mathbb{R}^2 \xrightarrow{f} \mathbb{R}^2$

( $f$  と  $A$  は 1 対 1 の対応)

$$\mathbb{R}^2 \xrightarrow{f} \mathbb{R}^2 \xrightarrow{g} \mathbb{R}^2 \text{ によつて } A \times B, A+B$$

$A+B = A \times B^{-1}$  ( $B$  の逆元) 等の演算ができる。

生徒に対する指導としては平面上の変換 相似、回転、裏返し等がある。

○行列の問題例

複素数も  $2 \times 2$  行列として考えられる。

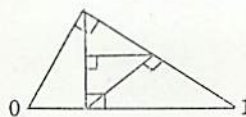
$$\text{単位行列 } E = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \quad I = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ -1 & 0 \end{pmatrix} \quad I^2 = -E$$

複素数の集合  $aE + bI$  は

$$\begin{pmatrix} a & 0 \\ 0 & a \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 0 & b \\ -b & 0 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} a & b \\ -b & a \end{pmatrix}$$

○写像について

写像としての例は関数しか扱っていないが面白い例としてピアノ曲線を説明した。



直角不等辺三角形の直角の頂点から対辺に垂線を次々に下ろすことにより、2つの直角三角形(大、小の区別がある)

に分けられることと、2進法との関連によりそれが写像であることを興味深く説明された。

＜研究発表＞

①「浜頓別高校商業科における『数学一般』

履修報告」

浜頓別 田 爪 哲 也

中学校ですでに数学に興味を失い、また失いつつある生徒に数学の面白み、意義を認めさせようとして数学一般を履修させたが、本校商業科生徒に関しては大半の数学嫌いが数学に興味をもち、自ら進んで考えるようになったという実践例である。

②「新学習指導要領の研究と実践」

熊石 南 川 文 雄

数学の本質は、数学的な考え方にあるわけだが生徒に、その考え方を身につけさせる一つの材料として、集合の概念を、より有効に導入、展開されて、十分な成果をあげるように実践した事柄が発表された。

③「1次変換と行列

一日数教編実験テキストの実践一」

札幌啓成 清 家 裕 雄

理数科の2年生に対して、継続して実践されていることがらのうち、特に、来年度からは、普通科2年生での新しい指導内容である「行列」をいかに指導されたかを発表された。特に、行列を1つの集合として、構造的(特に、同型対応の概念まで含め、群として)にとらえることが強調された。

## <理科部会—地学分科会>

### <研究発表I>

#### 「研究課題設定の試案」

北見柏陽 成田勝雄

#### 1 実施に当たりの条件

(イ) 本校理数科生徒を対称に設定し実施したものである。

(ロ) 生徒には、巡検をとおして問題を意識させると共に、目的を明確にさせる。

#### 2 研究課題設定の準備

(イ) 時間的な配慮、(ロ) 施設設備の整備、(ハ) 生徒の能力および適性を考慮する、(ニ) 連帯観の育成、(ホ) 北見市地史の巡検案内による導入等

#### 3 テーマ設定の試案

(イ) テーマの例として、(a) 珪藻土の分析およびプレパラートの作製、(b) 化石のスケッチおよびクリーニングとその整理、(c) 塩水濃度の分析、(d) ルートマップの作製等

(ロ) レポートの提出手順、(ハ) 研究班の編成、(ニ) 時間配分、(ホ) 研究課題の評価、(ホ) については観察、企画・準備、測定、記録・整備、解釈、推論、検証、以上による総合評価として考えられるが未実施である。

#### 4 反省

- 1) 指導するものの志向による単元内容の限定
  - 2) 資料収集活動の適切な時間外の配慮
  - 3) 課外活動の学習量を軽減する問題
  - 4) 採点業務と定期試験との関連
  - 5) 研究班編成の少数原則の制約
  - 6) 指導計画への学習助手参画の問題
- #### 5 科学の方法

### <研究発表II>

#### 「岩石プレパラート作製(生徒実習)

について」

札幌旭丘 高田祐幸

#### I 実習と目的

- a 作業の体験と喜びの感得
- b 岩石の美しさの観察
- c 地殻構造物質とは
- d 完成プレパラートによる他者との比較

#### II 導入

- a 主として、カコウ岩のプレパラートを作製させたため、生徒個々の厚さが不定であるので、干渉色、組織等の相異が生じ、疑問をもつようになる。

その疑問が授業の視点ともなり、理解を深める要素になった。

- b 同僚の作製したプレパラートを比較観察するため、構造上の成因等に疑問をもつことによって、深成、火山岩の説明が容易に理解できたようである。

### ②「地質図実習導入時の地質図について」

札幌旭丘 高田祐幸

#### I 目的

生徒には、基礎地質図学(描図と読図)大杉敬、士田定次郎、森川六郎、共著の1および2ページの図を与え、説明することなく等高線を切る、地層境界線を記入させてみる、その結果、境界線の意義および、描かれる条件等を考察させることによって次の段階へ発展せしめ、さらに複雑な地形における、境界線の記入を実習させる。特徴としては、境界線上の岩石範囲に斜線を記入することによって、連続的な作図が描かれ、かなり複雑な岩石分布を完成できることである。なお、この実習完了後、さらに、地学実習書(北海道編)を課しているが、非常に容易に解答している。

### <研究発表III>

「地学でどんなことを、どのように

学習させたらよいか」

湧別 尾尻 久

学習指導要領に準拠して、教科書が編集されるはずであるが、どうしても編集者によって異り、利用する学校によって、意図する解説書に従わざるを得ない。また地学の特性から果して、内容全部が導入の要素なのか疑問である。例えば、IとII関連については、内容として、大差のない教科書もあり、さらに、地域によって、また学力の程度等を考えるとかなりの問題をかかえているのではないかと思う。地学の性格上、まづ地学としての導入方法が大切で、興味ある学問であることを強調しなければならない。従って、難解とされる、マグマの分化作用、岩石の分類、地質図等はIにおいて導入することは疑問でもあるし、また、とり上げるとしたら、どのように導入すべきかが課題として、残される。私は興味の引出しの手段として、内容を選択して生徒が、地学学習の軌道に乗るよう考慮し、授業をすすめている。例として、15時間を日本沈没とプレートテクトニクスに費して、興味を喚起し、さらに、地殻変動とマントル対流説、環境の変化に伴う古生物の進化等

に力点を置き、注意力と興味を与えることに成功した。なお、地質図については、カットの予定であったが、日本地質図を色分けすることによって、日本列島の生い立ちを説明することにし、かなりの理解を得たようである。地学ⅠⅡの関連について諸先生の御意見を御伺いしたい。

## <理科部会—生物分科会>

### <研究発表Ⅰ>

#### 「生物教材としての魚類の利用」

函館西 白井 馨

数種の淡水魚のうち特殊な産卵習性をもつバラタナゴと飼育が容易で産卵数の多いメダカを取り上げて実験結果を示し乍らの研究発表があった。

バラタナゴについては、分布・形態・入手法・産卵習性・産卵管・産卵と二枚貝との関係、産卵管の伸長におよぼす雄と二枚貝の影響等についての説明があり、教材としては、1) なわぼり 2) 共生・3) 発生 等の観察に有効な材料である。また、メダカについては、本道に於ける野生メダカの分布・産卵法及び採卵、産卵周期と産卵数、産卵におよぼす温度や光の影響、二次性徴、体色変化等について説明があり、教材として、1) 産卵回数・時期・産卵数等の観察、2) しりびれ軟状の数の個体変異、3) 日照時間・温度変化等と産卵数との関係についての観察、4) 発生実験材料として利用できる。との発表があった。

### <研究発表Ⅱ>

#### 「生物Ⅰに於ける序章の扱い方の一考察」

砂川北 北野 敬典

「教育過程の改定に伴ない生物Ⅰ（1学年全員履習）と生物Ⅱ（3年時で選択）の関連の下で、生物Ⅰのあり方を考慮し、『探究の過程』を重視するとき、生物学の導入としての序章は以後の学習への布石となり、1年間の授業の形態、生徒の学習態度、学習意欲を左右する大切なところである」との観点で、プリント等を用い乍らの具体的授業の内容及びその定着度等についての実践報告がなされた。又、その結果、

- 1) 準備時間が予想以上にかかること
- 2) 謂ゆる「探究の過程」を重視する授業を行なうには文献が不足であること
- 3) 評価が難しいこと
- 4) 現在のところ、意図した程の効果が上らなかった。

等のことが明らかになった、との発表がなされた。

### ○質疑応答

研究Ⅰについて、タナゴの受精のしくみ、卵の発生と受精のしくみ、メダカやタナゴを教材に用いた時の生徒の反応、授業やクラブ指導でこれら教材を実際にどの様に利用しているか、等の質問があり、発表者より具体的な解答があった。

研究Ⅱについて、グループの構成人数、前段で理解度の低かった生徒の授業後の結果はどうであったか、他の教材の場合のグループ学習のあり方、生徒の自己評価について、等の質問があり、それぞれについて発表者からの解答があった。

### ○研究討議

討議の柱について数名から提案があり

- 1) 生物Ⅰとして取り上げるべき領域
- 2) 探究の過程を重視した授業はどう在るべきかの2つの柱にしぼられ、参会者多数から活発な発言があった後、助言者から次の様なまとめがあった。

「限られた単位数の下で効果的な授業はどうあるべきか、を考える必要がある。研究の過程を重視する授業とは必ずしも内容の高度なものを取り入れることを意味しない。生徒の生活に身近なものを題材として、生命現象を如何に教えるかを検討する必要があるのではないか。又、教材選択にあたっては、対象となる生徒も考慮しなければならない。大多数の生徒が興味・関心を示す教材を新しい時代の新しい教材として、お互に研究してゆきたいものです。」

## <理科部会—化学分科会>

### <講演>

#### 「化学と生学」

北海道教育大学助教授 那須 淑子氏

科学の進歩による人間をとりまく環境の問題が、近年重視されてきている。この問題を考えていく上では、自然科学的な面と社会科学的な面の両面を考慮していくことが当然必要である。そこで自然科学的な面、特に地球化学的観点から生活と環境について考えたい。まず生活の場としての地球の組成を元素的に扱い、さらに地球における生物圏の構成元素はどのようになっているか。次に、人と環境とのかかわり合いということで、食物連鎖を通しての微量元素と健康との関係では

- 1) フッ素とむし歯、2) ヨウ素と甲状腺腫、3) 鉄と十二指腸虫感染、4) 人間と鉛、水銀、ジルドリンその他、多々あるが人間の生命を第1とすることが大切であり、外部的環境とは有機的にバラ

ンスを保たねばならない。さらに、元素、物質の循環および物質の収支について、地球上の水の分布と更新に要する時間の関係は、どのようになっているか。人工物質を環境に与えた場合、生態系ではどのように循環してくるか、最後にこれら全ての面を考えて、我々人間が生存するためには自然に働きかけを行う必要がある、その結果として自然からの反作用が起るがエコサイクリックにとらえるべきであり、エコロジー化学の必要性を強調された。

#### <研究発表I>

##### 一基礎理科の研究と実践一

「本校（家庭科生徒の実態にそくした展開に

美唄南 丸山 豊  
福島 栄次  
昭和48年度入学生に対しては新教育課程になるが、家庭科における教育主眼が、家庭生活を営む上での豊かな情操と職業技術を体得した家庭婦人の育成ということで、自然科学の広い分野にわたってかたよりのない指導を通じて、総合的に理解させることが必要である。それで基礎理科をとりあげることとした。実施にあたっての展開は、既成の概念にとらわれず、生徒自らが学習に取り組む姿勢を持たせ、理解しやすい指導内容とするよう努力した。実施後基礎理科としての物理、化学ではなく、本来の総合科学としての基礎理科に育ててゆかねばならない。

#### <研究発表II>

「多糖類の構造研究」

江別 山浦 正

自然界における多糖類に関しては未知の点が多い。そこで、本道産のいかの肝臓を用い多糖類の構造研究に着手した。その結果、糖脂質の糖鎖の化学構造の決定はグリコシダーゼによる加水分解とメチル化法の組合わせが最良の方法でないかとの研究報告がなされた。

#### <研究発表III>

「化学の授業における視聴覚機材の利用に

ついて」

小樽桜陽 岩崎 健一

化学の授業において視聴覚教材を用いた場合の学習効果について検討してみた。

OHP 16mm、VTRを利用して、放送教材は視聴覚教材中最も利用しやすい。普通の授業ではできない教材や方法、又有効なモデル提示が出来利用

上大きな魅力であり又一本20分間テーマで構成されているので復習用としてもよい今後年間計画とつぎ合せ意欲的に利用してゆきたい。しかし現状ではまだ種々の問題点を含む。

#### ○研究協議「錯塩について」帯三条 中島利男

錯体の化学が全国的にとりあげられているが、錯体を扱って何を教えるべきなのか、理数科での授業と課題研究での試みが報告された。今後の問題点として探求の過程を重んじながらどう指導するか、遷移元素やs.p.d軌道も出さざるをえなくなるが、果して消化できるか等が提起された。

○質疑・質問 伊藤（函館西）基礎理科は1人で教えるのに具合が悪いのでやめようと思っていますが、美唄南の実施後の感想はいかがですか。

(答) 福島（美唄南）生徒の反応がよかったので、総合理科という観点で続けたい。

#### <理科部会一物理分科会>

#### <研究発表I>

「実践を通して基礎理科の困難点、つまづいた点、今後どうしたらよいか。」

①美唄南 丸山 豊

家政科で基礎理科を実施している。実施に当っては生徒のグループ研究等を取り入れて生徒の興味づけを行っている。指導上の問題点として専門分野以外の研究等教師の負担増等が上げられる。現在は基礎理科を3人の先生で担当している。

②乙部 安濃 英治

学校の状況生徒の実態等を考慮して基礎理科をとり入れた。実施に際して注意した点、(1)能力に応じた個別学習、(2)視聴覚器具の利用、(3)実験学習の3点である。実施してみても問題点は(1)生徒の思考を大切にすると進度が遅れる。(2)生徒の学習の消化不良等があげられる。

③北見仁頃 中山 和雄

本校では基礎理科10単位で行っている。指導上の問題点として1人で全ての分野をカバーし切れな。授業形態（季節定時）からくる進度の遅れ等がある。生徒側の問題点として理科についての苦手意識、基礎学力の不足等がある。また教科書についても問題点が多いように思う。

#### ○質疑応答

熊沢（白糖）-基礎理科を実施して良かった点、中学校理科との関連はどうか。

中山-増単したのでその点が良い。中学校理科との関連では定性的なものから定量的なものへのつな

きがうまくいっていない。

斎藤(札北)-大規模校で基礎理科を内容によって別々の先生の授業は学習活動の上からどうか。

丸山-1人の先生が中心になっていて実験等で専門の先生に手伝ってもらっている。

池田(札工)-中学校の理科や数学との関連で内容の組み換え等が必要だと思うがどうか。

安濃-物理でつかう数学等を授業の前に行っている。

丸山-今年は物理の分野からというように組み換えをしている。

<助言>武部(理科センター)-基礎理科は現在全道で50校位とり入れている。全ての理科にあてはまるが子供達がついてこれる内容構成でなければならない。

#### <研究発表II>

「物理Iの実験について(二次タイマーに  
単振動の解析)」

旭川西 菊地 仁

普通科に於て物理の課題研究を取り入れた。その中で生徒の考えた実験の1つとして二次タイマーの実験解析を紹介する。これは鉄のこ刃にタイマーをつけ振動させグラフ用紙をテープとして使う。これにより単振動から波動への発展も考えられる。

<助言>秋山(理科センター)-課題研究の層が厚くなった。今後も生徒の発想による実験が多数でてくることを期待する。

#### <研究発表III>

「物理IIの原子の指導法について」

千才 名西 励

原子の構造の指導展開案として物理に興味のある生徒を対象に内容の深いものを行なう。内容は化学との関連を考慮した原子核外電子の配置、電子雲等を物理的な立場で生徒に理解させたいということで指導内容の展開を考えてみた。

#### <理振法の改訂について>

道教委 奈良 英男

理振法の改訂についての主旨説明、規格変更による場合の問題点について。

#### <理振新基準品目の特長と実験の扱い方>

理振基準品のうち

- (1) データー収集処理用乱数器
- (2) 直法安定化電源装置
- (3) 慣性モーメント実験器の紹介と取り扱いの説

明

以上

#### <保健体育部会>

##### <講演>

「性教育」

医学博士 田多井 吉之介氏

氏の「性教育」という言葉の底に、一貫して流れるものは、「人間性」ひいては「生命の尊厳」ということであり、いわゆる「性教育」の中に出てくる「性交」「避妊法」などについては二義的なものとされる。「行動科学」の概念を理解し、「生命教育」へ、種々な面からアプローチし、「性」というものをもっと広く、悠久なものとして取り扱う教師側の態度が必要なのではないかという話を聞き終った時、我々が授業で苦慮している「性教育」なるものに、何かひとつの大きな指針を与えてくれた様な気がする。尚、そのあと、氏の専門とする「バイオリズム」について、具体例を混じえた興味深い話があり、講演を終了した。

##### <研究発表I>

「保健学習に於ける性に関する問題」

岩内 玉山 治 義

性教育は幼児から成人までと云う考えかたがあるが、我々は高校生を扱っているので、どのような所から手がけていくか。そこで小中学校の指導要領との比較関連を知り、連携を持った具体的な指導を考える必要がある。又高校での他教科との関連を充分知り、それとの連携を充分にして指導する必要がある。

指導上の諸問題として ①人間活動の中には性がある。②我々も性について充分知る必要がある。③人間と動物との性欲の比較について取り上げる。④生徒の実態と内容との関連。⑤物ごとにより生徒の価値観が変わって来たので整理して指導する必要がある。

指導してみて「性」に対して間違った知識を持っていた生徒も居たので、そのような点ではよかったと思う。

##### <研究発表II>

「水泳の指導とその体制づくり

佐呂間 増木 康郎

指導要領の中で水泳が「共通必修」として、取り上げられたが、本道の場合、他の教材と同列に取り

扱うには難点が多い。しかし体育の上からだけでなく、安全教育の上からも考えていく必要がある。施設不足、環境条件、特に北海道に於ける気象条件と施設内容等では考慮する必要がある。指導者も他の種目の指導者は多数居るが、水泳の指導者は少ないので、事故防止の上からも研修して増員する必要がある。又地域の水泳に対する理解度が低いので啓蒙して高める必要がある。

#### <研究発表III>

『本校に於ける体育授業の効果的指導を見出すための考察』 津別 高田 毅

今日の体育は民主化された個性を尊重し、欲求を把握し、指導計画を作り、それを実施することである。又欲求を生徒自身に再発見させることが、学校教育の体育授業での使命である。体力診断テストで一般生徒の運動量が少ないことについての問題点、見学、欠席生徒の取り扱いと評価について、又記録中心になる教材では体力と記録の向上による評価努力点など客観的、主観的評価の取り扱いに一考を要する。現実的になつて来た生徒に汗を流して喜ぶことを教えるのが我々の使命である。

#### <看護部会>

#### <講演>

「教育ノート、主としてその指導と評価」

美頤聖華高等学校長 阿部 重 広氏

新指導要領による看護科の目標、指導計画作成上の留意点。学校目標、技術教育のあり方と問題点。指導の方法と教育の評価については、生きた直観から抽象的思考へ、そして実践へと系統だてた指導、事実を見きわめ、仮説をたて、検証し、法則の理解と実践のできる力を養う指導、いわゆる与える教育から考える教育への脱皮が必要である。

#### <研究発表>

「保健所実習指導に関する考察」

美聖華 谷本 キヨウ

#### ○討議事項

1. 実習計画について
2. 実習報告書について
3. 座学と現場実習との関連
4. 実習保健所との連絡による事前協議
5. 授業効果
6. 学生の反応

#### <芸術部会>

#### <音楽分科会の報告>

「視覚化を進めた私の鑑賞指導」

浪花 正雄

『新学習指導要領における創造性の問題を重視し、これを養ううえで鑑賞教育の果たす役割は非常に大きいと考え、知的認識の上にとった、より深い感動をより多くの生徒に与えたいとの願いから「言葉」と「レコード」だけの指導ではなく、学習の現代化の立場に立ち、教育工学の考えを導入。OHP、スライド、VTR利用による視覚化を進めた指導を実施。すなわちOHP用TPシート(自作のもの)の利用によって曲の主題の色別、歌唱、楽器による演奏を通して主題を把握させる。VTRによって大家の実際の演奏を鑑賞させる。スライドにより各国の風物、建造物、絵画、楽器、楽譜を紹介し音楽文化史の理解を促進させる。等これら機器利用(精選された利用)による指導効果は非常に大きいと考える』以上が発表の概要で、発表者自作のTP、スライドを使用しながらの実践発表であり、約30名の参会者を共鳴・感動させるものがあった。<質疑応答>では授業形態・鑑賞における評価の問題・日本音楽の授業展開等について話し合わせ、助言者からは「発表者の実践は単に音楽教科の枠内だけでなく、他教科との関連を考えてなされていることはすばらしいことで、ぜひそうあるべきだ。又鑑賞における評価については客観的に判定できるものを取り上げていったならば評価していける。本日発表の資料の中に現代のものが少いようだが今後に期待する。とにかく昔ながらの授業を脱して現代化を目ざしていることに敬意を表する」以上のことが述べられた。

#### <美術分科会の報告>

#### <研究発表>

①「北海道の風土的条件—創造性

の手がかりとして」

三笠高美 大津山高

本道の芸術は東京文化の直輸入による従属的な実態に対して問題提起、結論的には本道の伝統文化や気候風土の良さを再発見させ、郷土の素材を生かした創造性の伸長や個性づくりのできる芸術教育の推進が必要である。

## <研究発表>

### ②「自発的な創造性育成を目指す芸術教育」

三笠 志賀 隆

新旧カリキュラムの長短を比較しながら創造性教育のあり方に問題提起、結論的には創造性を育成するには芸術法を推進し施設設備の充実、総合制高校の特徴からは各学科の特性を生かし、興味度合に重点をおいた教材配列、多様化された指導計画が必要である。

その他提案1 仮称北海道美術工芸研究会設立、結論的には本会の趣旨徹底を全道的に図るには高文連の組織を利用する。提案2 来年度の研究課題は全道的実態調査(施設設備、生徒の教材負担額など)を中心とする。

## <英語部会>

### <講演>

#### 「私の英語教育観」(要旨)

小樽商科大学教授 脇田 勇氏

私が教わった先生をふり返ってみると、優れた先生が多かった。中学(旧制)時代では1,2カ月間教科書を全然やらずに、おもちゃを教卓の上において、What's this? - It's a dog. という具合に抵抗なく英語の中に引き入れてくれた先生。文章を読めないと読めるまで立たせた授業にきびしかった先生。難解な質問に立ちどころに解明してくれた実力のあった先生。……このように今から考えてみると、それなりの意識と熱意のあふれた先生方だったと思う。わけても、最後の先生からは、二つの大きなadviceを受けた。一つは、今でも版を重ねるごとに購入し愛用しているPODを紹介してくれたこと、もう一つは、「短い文章を暗記するより手頃な本を一冊暗記しなさい」と言われて、紹介された中から選んだHawthorneの Biographical Stories を休暇を利用して暗記したが、これはその後英文を書く上にどれだけ役立ったかわからない。

その後、東京高等師範学校に入ったが、入学した途端に大きなshockを受けた。そのshockはほとんどの先生が英語で授業されたことと、先生の質問に対し軽く受け答えをした友達が数人いたことで、自分との差を強く感じた。このshockをとり戻そうとしてがんばったが、この時期が自分の生涯のうちで一番勉強したように思う。当時の先生は教室内はもちろんであるが、講義が終ったあとも非常に熱心に指導してくれた。たとえば食後30分くらいの

Free talkingを義務づけてくれたり(その当時は全寮制)、又自宅まで呼んで教えてくれたりもした。その他native speakerを友人に求めたり、通訳の体験を重ねていくうちに、下手は下手なりに話すことが身についていった。6年間でみっちりこまれたことは、テキストを正確に読むというところで、学部に入ってから文学に取り組む姿勢と学問をするapproachの仕方を教わった。

英語をどう考えたらよいか - 60数年前、岡倉由三郎氏が著書の中で「学校の英語は実用一本ではいけない。正しい基礎を与えなければならない。言葉の科学的興味をつちかうことにある。……」と書いているとおりのことが、現在でもなおあてはまると思う。いずれにせよ、ささやかなものでも一生懸命にとりこんでいく姿が生徒をひっぱっていくのではなからうか。

## <研究発表>

### ①「英語の基礎学力の定着をめざして」

芽室 斎藤 貞雄

基礎力が定着しない生徒に中学英語の総復習を徹底させるため、発音・語い・文法など7項目にわたって細かなテスト結果を分析し、やる気をおこさせながらLevel upをはかって指導していく、いくつかの方法が報告された。生徒の実体をつかんだ上での適切な指導がいかに大切であるかが痛感させられた。

### ②「英語の授業改善を求めて」

一英作文を中心に一

札幌啓成 高橋 宏

「生徒の側に学習が成立して始めて教えたことになる」「勤や経験にたよる授業から脱して、心理学・言語学・教育方法の立場から授業を科学的視点で捉える必要がある」などの傾聴すべき提案がなされた。又英作文の指導にあたっては黒板に書かせる従来の方法の外に、TR、OHPの効果的利用についても具体的な例をひいて発表がなされた。

### ③「英語会話の取組について」

旭川商 大沢 征次

従来から英語検定受験、ヒアリング訓練(年5回の定期考査に10~15分実施)、教師の研修会等意欲的にとりこんできたが、「英語会話」を新カリキュラムに取り入れるに当たって、①質疑応答(まちがいをしても度胸よくやれば通じる)②自作会話文

(思いの外ハッスル)③自由英作文(目標の50語を軽くoverして自信つけた者もいる)④休暇中の課題(自由闊達な表現におどろく)⑤外国人との接触(留学生との交流)など、きわめて意欲的に取り組んでいる姿が想像された。

④「新しい英作指導の一つの試み」

千才 石田 邦明

新教科書で「英作文」と「英文法」をどう指導したらよいかむずかしい問題であるが、文法の教科書は参考書的に扱っているので文法は定着しない傾向があるが、生徒の実態に即して指導すべきでなかろうか。作文の指導にあたっては、自分の考えや言いたいことを表現できるところまでを目標にしたい。さらに自由作文ノート(主に家庭学習に利用)を持たせ、個別指導を徹底させて力をつけたい。今後の成果に持つところ大である。

<農業部会>

<講演>

「北海道農業を展望し農業教育に期待するもの」

北海道大学農学部助教授 桃野 作次郎氏

1.北海道の農業教育

第3期計画、或は従来に於ける開発農業振興指導それに沿うような子弟を教育する。夫々の計画は短期、中期、長期を含めてあるべき方向を示す、それを具体的に担うところの、担うにふさわしい子弟を養成することにあつたと思う。

2.難かしい時局に直面

○生活・人間性の多様化

(貧しい生活 - 富める生活)

貧しい段階にある者をレベルアップするために貧しい者自らがその心に飛び込んでくる体制を作ることが必要である。

3.戦後自主的、能動的でない依存的な生活の中に育った人間

①現状の農業経営者、農業指導者の多く

②新しい局面に対処する力にとぼしい

4.正しい農業評価の理解

本来の農業を確立するためには私達はすべてを忘れて農業をいかに評価させるか、正しい農業評価を国民運動としてはやくスタートさせねばと強く感じる。

5.農業経営も理論では駄目

実践の中に科学する、科学する中に新しい問題点を発見し発展する。その新しい問題をつかまえて計画を組み立てる。その反復が新しい社会の創造である。

農業経営は応用経済ではない。応用科学である(人文科学、自然科学、社会科学の総合)

6.欲求充足のための長期計画が必要

・長期計画 - 企業主としての性格

・短期計画 - 労働者になる

長期に対する計画がある場合は社会への貢献も大きく自分をも豊かにすることができる。

7.激動する国際経済、国際社会、国際政治の理解

-食糧戦争(1970年代後半~)の対決

① 発展途上国 - 近代国家への誕生を望む食糧生産は十分でない、そこに大きな社会不安がある。国の財政を食糧増産と社会治安(警察と軍隊)のために殆んどの金を使い果たしている。

社会不安の解消→食糧増産→金と時間

↓  
先進国に依存

② 日本の農業 - 遅れている

○農耕地比率15~16%低い(米国30%フランス40%カナダ50%以上)

○食糧生産率100~120%に向上の必要がある20%は発展途上国向け(援助ではなく日本の国民の安全性、国際社会における正しい評価を得るため)

○経済構造、体制の秩序一くずせないでいる。

・日本の経済体制は高度経済成長政策の作り上げ - 政治のあり方に問題(民間投資に依存、国家投資が少ない)

・国家投資が大きければ秩序回復は極めて簡単

8.北海道農業の生産力を高める方法

① 搾取のない社会

農村社会 - 豊かな社会 - 近代化社会

② 生産力の高い農業

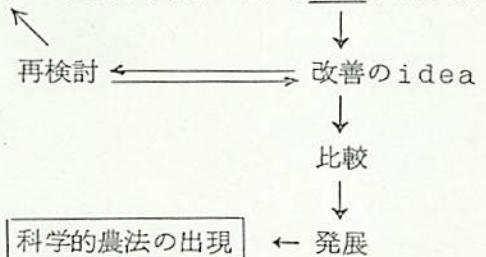
科学的な生産の仕組みを滲透させること。滲透をさまたげる条件の究明

③ 地域住民の連帯性

・地域農業振興の基本

・家庭の連帯性→部落の連帯性→村、町

④ 経営 - 実態、実践の中から科学がはじまる





## <家庭部会>

「昭和48年度全国産業教育指導者

養成講座家庭部会報告」

札北陵 田村 キクエ  
俱知安 森 美智子

○目測によるスタイル画の描き方(実習)

<研究協議会一私の家庭科教育観>

(意見発表)

深西 香川 篤子

家庭科をより楽しい教養の場に引き上げたい。生徒を将来の主婦とだけとらえず、家族の一員として現在置かれている立場で教育したい。家庭経営を男女共修にしたい。家庭科の姿勢は、家庭・家族についてははっきりとした認識を持たせることである。

(意見発表)

札開成 薨 郁子

家庭科教育は、家庭生活の理念確立に役立つものでなければならない。家庭の機能の中で、変らないもの、変ってはならないものを学ばねばならない。いつの場合でも、事実認識と本質的価値認識の出来る人間に育てねばならない。

(意見発表)

北北斗 有地 順子

家庭生活の重要性と、家庭科教育の重要性が何故結びつかないのか。今後の指向として、内容を生活科学的要素を持つた共学用に改め、社会生活と結びつく家庭科にしたい。現時点の解決策としては、家一の増単、教材の精選、実技指導は科学的根拠に基づくこと、生活を不如意にしている問題点の究明が必要である。

(意見発表)

岩西 進 藤 貴美

家庭科の目標は、全教科を駆使し、応用発展させ、創造的に考え実践してゆく人間育成にある。技術は、人間性の回復につながることが出来るし、実践活動を通して円満な家族関係をつくってゆける。男女共学の問題は、家庭生活の正しいあり方という観点からとらえねばならない。その為には、内容研究が是非必要である。

○質疑応答・助言

室商 寺田 晴美

将来起り得る事、例えば老人問題等も含めて教えるべき。

(道青少年婦人事務局)磯江八江子-アメリカの家庭は賤が厳しく、男性が協力的である。主婦は大変働き者であるが、社会に役立つにはどうしたらよいかを考え行動している。我々は、もっと大きな視野に立って教育に当たらねばならない。

(深西)香川篤子-食物選択希望の男子をどう扱ったらよいか。

(栗山)高久哲子-選択人数のアンバランスが起きたので、男子にも食物希望者を募った。授業態度は、最初の指導さえしっかりやれば、何の心配もいらぬ。

(岩西校長)岩村正善-今の家庭教育に必要なことは親、中でも母親が言葉よりも態度で子供に教えることではないか。家庭科教師には、是非理論と実践を密着させた教育を望みたい。

<講評>

指導主事 沢井 泰子

家庭科教育は学習した地識・技術を家庭生活に生かしながら、社会の変化に対応し新しい家庭生活を創造していける人間を育てることにある。その為、人格、実力を兼ね備えた指導者になるよう研鑽して欲しい。

<講演>

「消費者の現状と課題」

北海道消費者協会会長 後藤 マサ氏

現状は消費者不在である。今後は男性参加によって組織強化をはかり、学校教育の中で消費者主権の思想をしっかりと植えつけ、教育と消費者運動の連携を密にすることが大切である。

○質疑応答

樽桜 酒井康子-台所用洗剤は無害か。

芽室 岩佐昭代 公正中立な資料提供を協会の資料、施設を活用して欲しい。洗剤は高級アルコール系以外は有害と考えた方がよい。我々は常に「疑わしきはとらず」でありたい。

(総評)

速軽家政校長 吉山 峯子

何事にも、現場の声を実践を通して生かすよう努力してゆきたいものである。 以上

<工業部会>

<講演要旨>

「学校教育の現代化と授業のシステム化」

東京教育大学教授 金子 孫市氏

教育内容の現代化の考え方は、1950年代に米國が先端を切り、日本ではこの影響を受けて、学習指導要領の改訂を小学校段階から行って来た。しかしながら内容の現代化だけでは、子供の教育を全うすることは困難なので、この問題は教育方法の現代化を含むようになって来た。このような状況の中で、学校教育の現代化とは、どんな問題を含み、それがさらに直接子供に接触する授業の面でどういう技法を開発すべきかを次の項目にしたがって説明致します。

I 学校教育の現実

II 現代の特質

- Ⅲ 現代教育の課題
- Ⅳ 「指導の効果と効率」
- Ⅴ 授業のシステム化

<研究発表要旨>

①「工業高校における専門教科の

教育内容の現代化について」

俱知安 高橋 淳一

機材科における教育内容の精選、構造化の手法について

〔研究の姿勢：すすめ方〕

- 1) 精選の必要性はなにか。
- 2) 精選、構造化とはどのようなことか。
- 3) 根幹をなす教材の条件とはなにか。  
(指導内容精選の手続)
- 4) 単元を例に教材構造を取り出すにはどうするか。(教材構造の取り出し方)
- 5) 具体的精選の手法について
- 6) 以上を参考に科目「原動機」の精選、構造化を試みた。
- 7) 学科「機械科の教育内容の精選、構造化」を考えてみた。
- 8) 最後に教育内容の現代化とはどのようなことかを考察する。

②「専門教科の現代化および

教育内容の精選について」

江差 安部 嘉孝

専門教科の精選として各教科科目の精選、各教科科目の教育内容事項の精選等を取りあげ、基本的事項の選択のありかたについて、素材を提供するとともに、教育内容の現代化に対し、現場の実践として電気工学Ⅱにおける直流機の単元について、視聴覚機器およびシート機材利用による展開計画の一例を紹介する。なお、その精選の基本的観点として、次のような事項をおさえた。

1. 学習指導要領の教育目標
2. 生徒指導要領の教科の観点
3. 広い応用性のある内容のもの
4. 工業技術の進歩発展に伴いその基本的知識および原理
5. 生徒の能力、適性に応じてその可能性を伸長する。
6. 他教科科目との関連

③「工業高校における専門教科の

教育内容の現代化について」

美唄工業 宮川 史寿

後藤 忠範

私達は実験実習、設計製図を核とした教育課程を編成する過程の中で、今回の研究主題である。教育内容の精選と構造化を論議、検討してまいりました。

その手がかりとして、実験実習、設計製図の基本的事項をとらえ、更に建築科全体の構造化即ち(教科科目)・(実験実習・設計製図)・(技術目標)の総合的、有機的な関連づけを明確にしながら、構造力学を例にとりて基本的概念・要素のあらいだし方法。更に基本となるものは何かを定めるまでの考え方の手順を示しながら、科目の構造化の手法を述べ合せて、実験実習・設計製図の展開等も、スライドにまとめました。

<商業部会>

○全体会議

(午 前)開会の辞のあと、それぞれ要旨次のような挨拶があった。

道高校教育研究会商業部会長 友田義潔 小樽商校長 — 情報処理教育と、高校再編成計画について  
道教委指導主事 古室俊行氏 — 情報処理教育センターと商業科関係道予算について

道高校長協会商業部会長 相沢健一 札幌高校長 — 全商協会の本道指定テーマについて

続いて講演に入り、商業教育の振興と題し、二階堂文雄旭川商校長から、初等・中等教育を一貫性あるものとする。その水準確保のための具体的方策の確立、専門教育の認識などについて強調された。

浜崎静夫深川東校長からは、教科指導の現代化のテーマで、学習指導理論の歴史的変遷をふまえ、最近注目されている範例方式について、多角的なコメントがなされた。

(午 後)各分科会の討議について、それぞれ報告があったあと、質疑応答があった。

佐藤枝郎芦別商教頭から、進路決定時期や科学技術教育の適否についての、道教育関係者の見解に関連して質し、また高校再編成問題については現場の意見を聞くべきだとされたのに対し、相沢校長から進路決定時期は伸びているようだ。富山県の科学技術教育は失敗ではなく軌道修正と解する。高校再編成については部内で委員会を作って話しあいたいとされた。

松永千里大成高教論から、普通高校での商業科担

当教員の研修と発言の場をもっと多くしてほしいとの要望意見が出され、友田校長からこれらの教員名簿を作成したり、研究集会で普通科部会などの設置をするなど、努力しているとの答弁があった。

最後に、部会会務報告・役員選任が、各担当者より報告・提案され、すべて承認された。

(司会者)土谷哲夫(仁木商)勝海 隆(函 商)  
(記録者)管生 肇(札東商)七野啓司(小樽商)  
＜第1分科会＞－ 地域社会、産業界及び大学に対して商業教育の目標について一層の周知をはかり、生徒の適性等に応ずる適切な進路の選択を可能にするためにはどのようにしたらよいか－ というテーマを中心に次の先生方が研究発表をした。

白川智洋(札東商)、葛田伊佐雄(奈井江商)、衰口一光(芦別商)、一色有雄(北見北斗)、市川岩治(福島商)、森重五郎(旭北都)

＜第2分科会＞－ 商業教育を充実させるためには学習内容をどのようにしたらよいか－ というテーマで次の先生方が研究発表をした。

滝本 裕(小樽商)、乙坂英司(士別商)、柏原敏之(留辺蘂)、五十嵐正義(中川商)、海遠光一(岩内)

＜第3分科会＞－ 教科の効果的な学習指導をおしすすめるための具体的な方法はいかにあるべきか－ というテーマで次の先生方が研究発表をした。

堀 征市(風連)、森田郁文(妹背牛商)、長島光治(旭商)、末岡正嗣(白糖)、渡辺輝雄(小樽商)

＜第4分科会＞－ 商業実践の効果的学習指導をすすめる為の具体的な方法はいかにあるべきか－ というテーマで次の先生方が研究発表をした。

小林真一(函商)、菊地秀彦(小樽商)、原 敬人(下川商)、水尻賢治(浜頓別)、細川郁雄(釧路商)

＜第5分科会＞－ 情報処理教育センターと情報処理教育について－ というテーマで次の先生方が研究発表をした。

田ヶ谷隆(仁木商)、東本慎一(旭北都)、三林尊(根室)、奥平松一(網向陽)

※ 各分科会の研究発表者のテーマ、協議内容について指定枚数の関係上割愛せざるを得ませんでしたので内容等を知りたい方は商業部会事務局(小樽商業)へご連絡下さい。

## ＜水産部会＞

### ＜講演＞

#### 「公害について考える」

北海道生活環境部公害調整課長

水 口 信 夫 氏

日本は昭和25～28年の特需景気以来、経済成長期に入った。経済が成長、発展するに伴いさまざまなまなひづみが出て来ている。公害も巨大な経済発展の中で生み出された産物である。以下日本の経済発展を公害を通して考えてみたい。

#### ◎日本の産業構造について

「日本はドルとゴミの溜る国である」。原料を輸入加工し、製品を輸出する。これが日本の産業構造であるが、加工する過程でゴミ(排棄物)を生み、輸出によってドル(外貨)が入るのである。又、世界の諸統計によっても、日本が如何に世界の資源を喰い荒しているかが判る。私達は公害を通じて、地下資源及び水、空気を含め、資源が有限であることを強く理解することが出来た。

公害を無くするために、日本の産業構造を直していかなければならない。経済活動を長期的に考え、計画の段階でその終末を予想することが必要である。

#### ◎公害問題に対する市民参加について

日本の国民は知的水準が高いから、住民を信頼し、全資料を公開し、住民の意見を充分に聴き住民の疑問に対応していくべきであろう。

#### ◎環境保全対策について

基本的には、公害を起さない、自然保護に沿って、公害防止と自然保護が調和した開発が必要となっている。

#### ◎北海道の環境アセスメントについて

開発には、すべて事前に計画・実施・企業進出についてアセスメントをする。その順序とし、

1. 環境保全の基本的方針をたてる
2. 環境の目標をどこに置くか
3. 環境の現状調査(大気・水・騒音他)
4. (将来の)予測(影響)
5. 以上の結果によって、開発に対してGo,Outを決定する。

北海道の環境アセスメントの具体的例として、稚内水産加工場、空知広域下水道の説明があった。

#### ○報 告

産業教育指導者養成講座報告

函水 工 藤 弥 一

<研究発表>

「水産食品衛生の指導法について」

戸井 小田切 幸 雄

「ホタテ貝増養殖の現況と将来」

樽水 埴 一 郎

「江戸庶民と魚貝類」

厚水 相 田 忠 郎

「本校におけるホームプロジェクト

指導の実践的研究」

恵山 池 田 順 一

○助言者挨拶

北海道指導主事 石 橋 政 雄

水産高校の役割として、後継者の育成、水産人の人材開発、多様な生徒に対して職業人としての資質の涵養などが強く求められている。

産業構造の変質・改造によって第1次産業（農・水）は大きな影響を受け、取り残されようとしている。

特に水産業においては、海洋法会議を中心とする国際諸状勢から、国際感覚を身につけ、発展途上国などの日本水産業に対する要望に充分応え得る人材を養成することがどうしても必要である。

このあと、研究発表に対する講評があった。

○部会総会

1. 昭和49年度水産部会研究テーマについて
2. 役員改選について
3. その他

以 上

<芸術部会>

「芸術教育」（現代詩から）

講師 河 部 文一郎氏

詩は人生にどんな役割をしているか。

T.Sエリオットは「詩は娯楽だ。しかしもっとも高級なる娯楽である。」といている。したがって芸術全体を娯楽ととってもよいと思う。

現代詩はわからないといわれるが、へたな詩がわからないのであって、現代詩がむずかしいのではない。現代詩は常に時代の先取りをしていると思う。常に新しい表現を試みるのである。現代詩はことばの意味を限定するのはだめだ。TAはAである」というふうに1つの固定観念を捨てて、常に確定性をもたないで書きあげる。つまりいかに不確定性をひろっていくかが問題なのである。TAはAでない」という機能を広げていく。だからことばの伝達機能（意味）を捨てて効果をねらうのである。ただむずかしことばを使ってむずかしく表現するというのはちがうのです。また受け取り方にも問題がある。1つの読み方を強要するものであってはならないのです。それぞれに受け取り方が異っていていい、だから芸術には模範解答なんてものはないのがほんとうと思う。読む人の年齢、生活体験等から受け取っているのではないか。かつて私の詩を大学入試にだされたことがあってその答えと私の意思とはかなり違い全部が正解というのが正しいと思ったことがある。

また現代詩の特徴として現代詩は自分をつっぱねる、自分を客観的に見るということもする。反逆、反賊的な見方をすることもあります。だから詩人は耽溺してなくてはならないと考える。批判精神が必要なのです。また他人がやったことをまねてはいけません。常に新しい表現を試みていくことは科学と一致しているといっってよいと思います。

子供達は芸術家に育てるのではないからただ経験、体験させてやった教育がよいのではないか。評価は主観的でよいと思う。

書道分科会

<研究発表>

書道Ⅰの学習効果を高めるための方法試案

芦別商業高等学校 渡 辺 登 一

○書教育の現代化をふまえ、自発的創造性を養い書教育の効果を高める実践例を発表、いくつかの具体的問題提起となる。

<討 議>

- 芸術科書通の意識を確立する必要にせまられる一方で書写的能力向上の必要にせまられる現実の中で、調和のとれあつかい方が今後の問題を提起している。
- 書教育のおさえ方について教師自身が悩みをもつ面もあり、理論的に系統化を進める必要もある。
- 効果を高める方法として視聴覚教材の活用が重要といえるが、書道教員、書道教室といった点で不足、不備の現状下で、教員養成、施設々備の充実を先決することによって、広域な効果をはじめて可能にする。

[地区活動紹介]

<日胆地区>

例年日胆合併で年1回の地区研究会を場所持ちまわりで実施しています。48年度は苫小牧工業高校が当番校として、48年11月30日(金)苫小牧市民会館で多数の参加者のもとで行いました。今年度の大きな柱は2本を立て、①学習指導法の改善をどのように進めたらよいか。②新教育課程にともなう教務内規の整備について、を全・定部会で研究発表、質疑、部会別協議の順で実施しました。

・テーマ研究表次の通り

(全日制)

「授業・学習のシステム開発に関する研究」

今井 充 裕(室清水)

「OHPを用いた学習指導の実践報告(教I)」

榎原 精一郎(静内)

能 登 将(静内)

「基礎学力とテスト結果の分析」

吉岡 芳 郎(鶴川)

「新教育課程に伴う教育内規の整備について」

伊藤 邦 彦(室商)

若狭 邦 夫(追分)

伊藤 邦 夫(浦河)

(定時制)

「学習指導法の改善をどのように進めたらよいか」

早川 勉(豊浦)

立谷 和 康(苫西)

吉元 豊(平取)

「教務関係の内規」 中山 雅 寛

「本校における履習85単位教育課程について」

森 幹 雄(虻田商)

「新教育課程に伴う教務内規の整備について」

矢倉 秀 夫(様似商)

<事務局より>

第11回高教研大会の研究成果を載せました「会報20号」を、本日会員の皆様方のお手元にお届け出来ますことを、本部事務局編集部と致しましては大変嬉しく存じます。

どうか本号を本年大会の反省資料に、あるいは来たるべき12回大会のための研究討議資料にと、十分なる御活用のほどをお願い申し上げます。

尚、本号から地区支部及び教科部会の活動状況を全会員に広く知って頂くために、特に文末にその紹介欄を設けました。この欄が各支部・各部会活動発展のいとぐちにでもなればと思ふ次第です。

(編集部一沢田)